

母親の膝に乗って演奏に聴き入る子供たち。本物の音楽に触れ、食い入るように見つめるまなざしが印象的だ



ファミローザ・ハーモニー 1994年に結成。母・石塚由紀子さん（ピアノ）、長女・恵美子さん（ピアノ・ボーカル・作詞・作曲・編曲）、次女・優美子さん（ボーカル・ピアノ・パーカッション・作詞・作曲・編曲）、三女・富美子さん（バイオリン・ボーカル・ピアノ）の4人編成の音楽ファミリー。クラシックをベースに民族音楽、映画音楽、叙情歌などジャンルを超えた演奏で活躍。2000年にはドイツ・モーツァルト協会からの招聘で、ドイツとローマでコンサートを行った。



ステージに作られた鳴き砂をイメージした砂山。コンサート終了後、子供たちが興味津々で遊んでいた



サンブ音楽学校のパウロ・ラメイロ校長を囲んで

本物の音楽で紡ぐ子供たちの未来



「風船おじさん」を覚えていますか。1992年、風船ゴンドラでアメリカに向けて旅立った彼の目的は、環境のパロメーターである「鳴き砂」保護を訴えることだった。

彼＝私たちの父は素晴らしい腕を持ったピアノ調律師だった。音、そして音楽に対する思い入れの深さから、汚れてしまうと鳴かなくなってしまう鳴き砂の音色、響きを守りたい。それは大好きな子供たちの未来をも守ることにもなる。その思いと、風船をたくさん持ったら飛べるんじゃないかという子供のころの夢をかかなるため、大空へと飛び立っていった。いまも、その思いを胸に空を飛び続けているのだらうと私たちは思っている。

2004年、ファミローザ・ハーモニー結成10周年の研修旅行の地として母がポルトガルを選んだのも、ヨーロッパ大陸の最西端で海沿いの国だからきっと鳴き砂があるだろう、探しに行きたいという理由からだった。

そこで私たちは、日本の専門家もうならせた最高の鳴き砂を見つけ、子供たちへの思いを父と同じくする音楽家と出会った。北米の作家が提唱した音楽理論に基づき、各国で「赤ちゃんのためのコンサート」を開いているサンブ音楽学校のパウロ・ラメイロ校長(45)だ。今回のツアーでは、父の夢と想いに深く共感してくださったパウロさんとともに「夢の調律師と鳴き砂」というテーマで、「赤ちゃんのためのコンサート」も行

った。彼のアイデアで、会場には風船ゴンドラのミニチュアを飾り、ステージには鳴き砂をイメージした砂山を作った。私たちが演奏することに風船ゴンドラが赤ちゃんたちの頭上を飛んでいく。聴覚だけでなく、視覚にも深く浸透するような素晴らしいステージを演出してくださった。

赤ちゃんたちの輝くような笑顔と驚きに満ちたまなざしは、演奏者である私たちにも大きな感動を与えてくれた。

パウロさんは来年11月、日本でも赤ちゃんのためのコンサートを計画している。まだ会場も決まっていないが、日本の赤ちゃんが直に楽器に触れ、本物の音楽と出会う場をつくるために私たちが尽力したいと思っている。



映画「女王陛下の007」の撮影場所としても知られるエストリルの5つ星ホテル「ホテル・パラシオ」でのコンサート。007のテーマ曲をダンサーとともに共演

凱旋記念 クリスマス・ディナー&コンサート

12月25日にグランドプリンスホテル高輪・貴賓館で、今年で12回目となるクリスマス・ディナー&コンサートを開催。凱旋記念となる今回のコンサートでは、ポルトガルでの感動と興奮、そして感謝の気持ちをこめて、皆さまにファミローザ・ハーモニーの音楽を楽しんでいただきたいと思っています。お問い合わせは、
オフィス・アイ ☎042・325・7444、FAX042・325・7455
E-Mail : famirosa@remus.dti.ne.jp
Home Page : www.remus.dti.ne.jp/~famirosa/

